あおい通信 第87号

第87号 平成24年8月1日
リハビリテーション
デイサービス葵・編集委員会
練馬区東大泉3－17－5
カトウビル3F
電話 03－3978－0919

東京江戸散歩

その四十五 雑司ヶ谷・目白台②

雑司ヶ谷霊園の墓達！！

←夏目漱石

↓永井荷風

←竹久夢二

写真・文　七海邦夫

雑司ヶ谷霊園

護国寺を出て、池袋方面へ向かい高速道路をくぐると雑司ヶ谷霊園が見えてくる。レトロな木造二階建ての花屋から入る。墓域を挟んで反対側に有る管理事務所に寄って著名人の墓のパンフレットを分けてもらうと分かり易い。十一万平方メートルの敷地は、多摩霊園の広さ、小平霊園の明るさはないが、都心と言うのに緑が濃い。三代家光の頃種苗園があったところで、明治七年に雑司ヶ谷墓地となった。

ここに眠る人々

●夏目漱石＝明治大正の文豪。代表作に「吾輩は猫である」「坊ちゃん」「こころ」●永井荷風＝耽美主義の代表作家。「つゆのあとさき」「墨東奇談」「断腸亭日乗」など ●泉鏡花＝明治から昭和期の小説家。尾崎紅葉に師事「外科室」「高野聖」「女系図」など ●小泉八雲＝本名ラフカディオ・ハーン。小説家で「怪談」「知られぬ日本の面影」「心」。●森田草平＝漱石門下の小説家、平塚らいてうと心中を企てる。後に「煤煙」「輪廻」など。●島村抱月＝劇作家、翻訳家、松井須磨子と文芸坐を創設、新劇運動に貢献。●大町桂月＝詩人、評論家、紀行作家、美文家で有名。●窪田空穂＝歌人、国文学者、「明星」に参加し「山比古」創刊、「まひる野」「濁れる川」。●岩野泡鳴＝明治期の小説家、評論家、詩人、「露じも」「夕潮」「毒薬を飲む女」「憑き物」。●サトウハチロー＝童謡、歌謡曲の作詞家。「小さい秋見つけた」「もずが枯れ木に」「長崎の鐘」。●大塚楠緒子＝明治時代の詩人、小説家、美貌の閨秀作家で漱石の「虞美人草」のモデルという。●小川笙船、小石川養生所の医者。山本周五郎「赤ひげ」のモデルとされる。

荻野吟子の墓

●荻野吟子＝日本初の女医、婦人解放運動に参加。●ジョン万次郎＝土佐の漁師で漂流中に米船に救助される。帰国後通訳で活躍、開成学校英語教師●大須賀乙字＝河東碧悟桐門下の俳人、本納寺に碑あり。●岩瀬忠震＝幕末期の幕臣で開国論を唱え、将軍継嗣問題で慶喜を支持、伊井直弼により免職。●阿部磯雄＝社会運動家で戦後は社会党顧問。早大野球部を創設、学生野球の父と言われた。●成島柳北＝幕臣で維新後下野「朝野新聞」を発行し政治批判をした。代表作「柳橋新誌」。●小栗忠順＝通称上野介。幕末に軍事、財政の要職を歴任、戊辰戦争で主戦論を唱えた後に処刑。●千葉定吉＝重太郎、千葉周作の弟が定吉で重太郎は息子。坂本竜馬の剣の師匠。桶町に道場が有った。●羽仁もと子、吉一、五郎＝自由学園創立者。雑誌「婦人の友」を発行。五郎は昭和期の歴史家で羽仁進の父。●鬼あざみの清吉＝江戸期の大盗賊、鬼薊の刺青があり、僧形で荒れまわり鬼坊主と呼ばれた。●竹久夢二＝大正ロマン期に活躍した画家。抒情画を描き「宵待ち草」を作詞、青年を魅了した。

雑司ヶ谷旧宣教師館

雑司ヶ谷霊園南の脇を通って住宅街の二本目の道を左折すると、赤レンガ敷きの区道が有り、右手に洋風建物が有る。区内に現存する最古の近代木造建築で、都内でも数少ない明治期の宣教師館として、都の登録有形文化財に指定されている。アメリカ人宣教師マッケーレフが自宅として建てたものであったが、地元の熱心な保存運動で、区が買い取って一般に公開されている。マッケーレフが新妻のデラと共に伝道のため横浜に着いたのは、明治二五年（一八九二）であった。

（続く）

世評・時評

昨年の震災以降、旅行業界は厳しい状況が続いていたが、今、東京スカイツリーのパックツアーが救世主となりつつある。いまこのツアーは売れ行きが絶好調で、五月後半の都内の宿泊施設は、特に窓からツリーが見える部屋については、割引せずにほぼ定価販売だ。

暫くは、ツリーが見える部屋は大手旅行社によって押さえられている為、宿泊料金は夏休みを過ぎ、九月位までは高値安定だろう。こういう時こそ、首都圏ならば横浜や鎌倉、もしくは京都、大阪、神戸といった関西方面に旅行すべきだと思っている。

一方で、関西にお住いの方は暫く近畿圏から出ない方が得策だろう。それでもスカイツリーに行きたいと言う方に提案したい。最寄りの押上駅やとうきょうスカイツリー駅（旧業平橋駅）ではなく、少し離れた錦糸町、亀戸方面からアプローチしてはどうだろうか。

あの辺りは庶民的な商店街が残っていて物価も安いエリア。「東京ソラマチ」や押上げ、業平地区の商店街に対抗して、錦糸町周辺の商業施設でもツリー開業に合わせた協賛セールをしてるはず。

又錦糸町周辺は安くて美味しい店が結構揃っている。錦糸町、亀戸で食事や買い物をしたり、亀戸天神をお参りしたりしながら、散歩気分でスカイツリーまで歩くのが賢い楽しみ方だと思う。

最後にツリーを只で見る〝橋〟スポットを紹介しよう。①**業平二丁目歩道橋**ツリーの目の前。足元から見えるので迫力満点、写真を撮るならここが一番。ただし、歩道橋なので通行の妨げにならないように。②**駒形橋**ビール会社の名物オブジェとスカイツリーが同時に楽しめる。③**桜橋**歩行者専用橋なので、家族連れにも安心。天気が良ければ東京タワーも見える。④**十間橋**川面に逆さツリーが映る。⑤**厩橋**スカイツリーのビューポイントの中では空いている所。

（なあさん）

◆編集委員会より お願いです

「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しています。担当飯島迄お申し出ください。

利用者さんの紹介コーナー

麻生　伊登子（木）

週一回の通所です。このペースがちょうどよく、とても楽しんでいます。昼食がとてもおいしく、マッサージもうれしく、幸せを感じています。

平岡　康（火）

短歌を二十年続けています。月一回の会があります。合唱も月一回の集まりに行っていました。火曜日の午後歌を歌うことがあり、とてもたのしかったです。

本橋　清治（木、土）

旅行が大好きで、日本全国いろいろなところをまわりました。旅行好きな仲間が集まり、とても楽しい時をすごしました。電車の時もあり、車のときもありました。いい思い出です。

敗戦の記憶

泉　貞子

私の寝室のテーブルに額に入った古い写真が置かれています。

昭和二十年、敗戦の年の一月に撮った貴重な写真です。生後二ヶ月の三男がこちらを向いて寝かされている枕元で、二才の長女がカメラを構える私の方を見てにっこり笑っている写真です。

その頃はフィルムが仲々手に入り難い時期でしたが、たらいで行水をさせて貰った三男の機嫌良く笑っている顔があんまり可愛いのと、その側で弟の世話を手伝っている長女がいとおしくて大急ぎでカメラを取り出し撮った記憶があります。

その写真を早速「北支」の夫に送りました。昭和十九年海軍報道班員を解かれた夫は、直ぐに陸軍に召集され北支へ出征しました。夫はその写真を敗戦後十二年に及ぶシベリア、中国撫順抑留中も肌身離さず持っていたそうです。

八月六日広島原爆投下後、地方都市まで次々と空襲が行われ、富山市も被害を受けました。私共は魚津市も危ないと、新潟県に近い入善町新屋へ疎開する事になりました。入善駅から徒歩で一時間以上の田舎で、夫の従兄が郵便局をしており、本人は召集されて家にはおらず、奥さんと中学学生の息子だけで、家は何時も村の人達の集会所になっておりました。

八月十五日、天皇陛下の玉音放送があると云うので、みんなでラジオの前に正座して一生懸命聞きましたが、雑音がひどくてよく解りませんでした。その時郵便局の中学生の息子が「負けた」と叫んで役場から帰って来ました。それから数日経って、村の人が何人も集まって何か相談している様でした。よく聞いてみると、アメリカ兵が来たら村人が竹槍を持って突いて出る相談でした。

はじめ私は冗談かと思っていましたが、少し心配になって差し出がましいが村の人達に申し出ました。『アメリカ人は野蛮人ではないから、国際法に従って降伏した日本人を訳もなく殺したりはしない。けれど竹槍などを持って集団で向かって行ったら、自己防衛のために発砲するだろう、そうしたら貴方達が殺される事になりますよ』と云ったら皆、黙ってしまいました。その後、私共は魚津へ戻り、何年も経ってしまいました。

数年後郵便局の奥様から、「あの時は奥様がいて下さって本当に助かりました。本当に皆、竹槍を持ってアメリカ兵を襲う積りでいたのですよ」と云われて驚きました。敗戦の記憶のひとつです。

まり体操

佐藤　富夫

社長様　スタッフの皆様お心遣い有難う御座います。

私はペンキ職人で働いて居りましたが、五十代になってから腰を痛め仕事も出来ず八十三歳の今日に至りました。

平成三年より十一年までに盲腸から始まり、前立腺肥大不思議な出来物大動脈瘤　心筋梗塞と大小合わせて五度の手術をうけましたが、心筋梗塞の薬が身体に合わず、肝臓が悪くなり、平成十二年に再度の入院で今日に至っております。

五十代より、石神井公園にヘラブナ釣りの毎日でしたが、腰が痛くて、散歩も出来なくなり家でごろごろしていた処、平成十二年に娘から、『ヒラガナが打てれば、パソコンができるよ』と言われ、勉強を始め十二年の歳月が経ちました。

今年に入りタバコが吸えるデイサービスが有りますよと言われ、お世話になりましたが、腰が悪くて体操に参加しませんでした。職員に導かれて、おそるおそる、まりの体操に参加した時、まりを腰に当てて反りましたら、痛みの中にもはずれた腰が、元に戻って行くような気がしたので、すぐまりをお願いして妻の分と二個頂きました。整骨院に通っていても二、三日でズレた腰を元に戻すだけでしたが、まりを頂いてからは一度もはずれず、今日に至っております。

散歩している中、知らない人より声を掛けられて、医者でも、整骨院でも、具合の悪い処を手当てをしてくれるだけの事、直すのは己にあり、己が自覚して、体に良いことを始める事によって、良くなって行くのだと聞かされて八〇代になって、人頼りの、己の弱さに恥じております。

どうぞ、今後とも宜しくお導きくださいませ、有難う御座いました。

女流俳人紹介

河角　進

細見綾子。兵庫県青垣町出身、日本女子大国文科卒、三十代で最初の夫に死別。松瀬青々に入門「捲鳥」に投句したのが俳句とのかかわりの初めである。一九九七年九月六日、九十才で亡くなる。

夫君は俳人沢木欣一氏。代表句に、『そら豆はまこと青き味したり』『きてみればほほけちらして猫柳』『ふだん着でふだんの心桃の花』『鶏頭を三尺離れもの思ふ』『峠見ゆ十一月のむなしさに』『女身仏に春剥落のつづきをり』『古九谷の深むらさらさきも雁の頃』。

松瀬青々は大阪の商家の生まれで正岡子規や高浜虚子に認められた俳人であり、上六の意伝を極めた句境を開いた。代表的に『日盛りに蝶のふれ合ふ音すなり』。一九九七年刊行の句集「牡丹」に、鑑真と母へ最後の牡丹を挿す。『吾亦紅ぽつんぽつんと気ままなる』

平畑静塔。一九九七年死去九十二才。現代俳句協会所属、京大俳句を経て「天狼」二代目編集長を勤めた。西東三鬼に師事。代表作に『藁塚に一つの強き棒刺さる』『座る余地まだ涅槃の中にあり』がある。

あおい俳壇

滝のごと　降る雨のがれ　薄ぐらき
コーヒー店の　隅に座れり

麻生　伊登子

水面蹴り　真鴨一群　いっせいに
飛び立ち行けり　青空の中

橋本　廣子

人波に　賣声高し　朝顔市
盆棚を　飾りて迎ふ　祖父の霊
短冊に　家内安全　托しけり

富　寿郎

雷神に　追われし小鳥　目に泪

相田　美代子

冷やっこ　薬味のしょうが　ほのぼのと
紫蘇（しそ）の香の　匂う朝市　妙延寺

葵友の会　広報コーナー

7月度行事の結果

歌舞伎鑑賞

9日（月）練馬文化ホール、14名参加。

役員会

15日（日）葵にて。

会

20日（金）バンバン、10名の参加。

8月度行事の予定

会

17日（金）バンバンにて。

ーヤ　大会

22日（水）ベイブにて、宜しく。

事務局長